



Interview



消防士
こじま せりな
小島 聖理奈 さん

私が消防士を目指したのは、中学校の部活でサッカーをしていたときの外部コーチが消防士で、「自分も人を助けられるような仕事をしたい」と思ったことがきっかけでした。一度は平戸を離れ、就職しましたが、地元で消防士になりたいと思い、転職を決めました。

令和5年4月に消防本部に採用され、消防学校で半年間の研修を修了しました。受講生47人のうち、女性は2人のみでした。研修では、男性・女性関係なく同

じ訓練で、男性との体力差を痛感した部分もありましたが、女性の自分のできることを精一杯頑張ろうと思いました。

消防署に配属されてからは、車両点検や、通信指令の受け方など、たくさんの仕事を教えてもらっています。覚えることばかりですが、早く皆さんの役に立てるよう頑張ります。

消防士は、最初に要救助者と接する仕事です。たくさんの声を聞いて、頼りにされる消防士を目指します。

Interview



消防士
ひわたし ももか
樋渡 桃香 さん

目の前で家族が病気で倒れた事がきっかけで、私は消防士(救急救命士)を目指すようになり、6月まで、兵庫県で消防士(救急救命士)として勤務していました。

佐賀県有田町出身で、家族が仕事で平戸によく来ていたこともあり、地元ではなく、平戸市で働くことに決めました。

以前の職場では、約100人のうち、8人の女性消防士が働いていました。救急の現場では、妊娠している人など女性を

搬送するケースも多く、「女性消防士が来てくれてよかった」と喜ばれることもありました。これまでの経験も活かし、女性だからこそできる対応を心がけ、小島消防士と一緒に頑張りたいと思います。

土地勘がない分、休日は市内を巡って、早く平戸の事を覚えたいです。

皆さんの声を聞き、気軽に話せる親しみやすい消防士になれるよう努めます。

広報ひらどを見て、男性も、女性も消防士を目指す人が増えてほしいです。

待望の女性消防士誕生

多様化する社会ニーズにこえ、市民の皆さんが安心して暮らせるまちづくりのためには女性の力が必要です。「消防」「火消」「男性の仕事」というイメージが強いと思いますが、消防の現場に女性消防士を取り入れることは、今まで気づきにくかった視点から住民サービスを提供することにつながり、子どもや高齢者、災害時の要支援者などへの対応力向上の取り組みとして全国的に進められています。

そのような中で、平戸市に誕生した女性消防士2人をご紹介します。

長崎県内の女性消防士

平成12年4月に長崎市で長崎県内初となる女性消防士が誕生し、令和5年4月1日現在、長崎県内で42人の女性消防士が働いています。平戸市でも消防署庁舎の建て替えで女性が勤務できる

環境を整え、各出張所でも環境を整備する予定です。

令和5年4月1日に平戸市で初となる女性消防士を1人採用、10月1日にも1人を採用し、2人の女性消防士が誕生しました。

業務内容

火災現場での活動はもちろん、救急活動、救助活動、119番通報を受け付ける通信指令業務、火災予防の指導を行う予防業務など、多岐にわたる消防業務を男性消防士と同様にしています。

災害現場などで「男性にできること」、「女性にできること」と分けるのではなく、それぞれの消防士ができることを精一杯やっています。

今後の取り組み

消防本部は、女性、男性ともに働きやすい職場を目指し、市民の皆さんの安心な暮らしを守るため、今後も訓練や技術の向上に励みます。

救急車を適切に使いましょう

救急車の出場件数・搬送人員数は増加傾向にあり、令和4年は過去最多となっています。

しかし、救急車で搬送された人の約3割が軽症という現実もあります。緊急性の高い症状の傷病者に、できるだけ早く救急車が到着できるように、適時・適切な利用が必要です。

救急車が必要か迷ったときは、お気軽にご相談ください。

▼救急医療機関案内電話(24時間対応)

☎22・4199

▼長崎県子ども医療電話相談

☎#8000

◀救急車利用マニュアル



救急車利用リーフレット▶

